

香美市物部町中津尾は山深い集落で物部町の中心部大森から県道や林道を經由して約1時間かかる。

直線距離では6キロにすぎないが香南市や安芸市を通るか、宇高舞林道と走るか、行けども行けども山ばかりの道程だ。中津尾には下中津尾と堂平という二つの集落があるが2016年から住み人が居なくなってしまう。

現在、唯一人、中津尾出身の小松英延さんが香南市から通ってシキビを栽培し、祭事など地域の伝統行事を守っている。

奈良時代にさかのぼり神亀元年(724年)ちょうど1300年前に聖武天皇の勅願をもって行基により大忍庄真光山平等院長谷寺(禪寺)が宗教の聖地として堂平に建立されていた。夜須郡羽尾の長谷寺はここから移転していったものといわれる。

小松英延さんに中津尾、堂平のことを教えてもらう。小松さんの祖先は江戸時代末期まで大森としていた。故郷を守っていたらおいかここに光が当たることあるかもしれないと希望を持ってシキビを作り、山にのみこまれないよう守り続けている。

下中津尾は谷間の地形なので平地がなく、家屋は石垣と積んだ土の余幅に張りつるようになっている。

中津尾は営林署の事業所があった昭和35年にピークの123人が住んでいたが平成28年に堂平に住んでいた人が亡くなって無人の集落となった。

香美市物部町線
新道橋
昭和40年架

昔は宇高舞や板本、板谷へつながる往還道があった。観音様の祀られている一帯に長谷寺(禪寺)があった。1300年もの昔、このあたりにはとても栄えていたと考えられる。

観音様神社

宿坊や小松英延さんが栽培しているシキビの苗がここにある。

シキビ畑

小松英延さんがシキビを栽培しているおかげで堂平の景観は明るく開けている。

堂平
標高250m

落石多い
パンク注意

薬師堂

古くから信仰を集めているお薬師さん。耳や目、鼻など人の穴に御利益があり、おえいには穴のあいた石が奉納されている。お堂のそばには杉の木が立ち、せせらぎが流れる。縁日は旧暦1月11日と正月11日。

庄谷相に住む公文寛伸さんは農協に勤めていた若い頃、月に1回宇高舞から山道を歩いて集金に堂平まで行っていた。堂平のお客さんの家に着くと、話し伽に焼酎を飲むコップ一杯出されて、それを飲み干さないと集金できず、焼酎を飲まされて毎回フラフラになって帰っていたそう。今はこの道も人が通らなくなっている。



堂平は山々の尾根を縫って各地と結ぶ交通の要衝であった。長谷地へ通じる山道は馬車が通れるくらい幅広く作られていたという。1300年の昔、この地が長谷寺を中心に栄えていた光景を思い浮かべると歴史のロマンを感じる。堂平とはお堂のあつ平な地。

堂平の中谷山に小松道右衛門という山の中川から初住して来た人がうねみにお会い。八幡土菩薩の釣石を玉でしめした。その後、堂とお連れ、お寺を建てて毎年七月七日に「生誕祭(いしだまつり)」というカエルのいっせいで祭りを開催していた。このお寺が「宇高舞林道」

中津尾は大忍庄に属しており、豊臣時代に編纂された長宗我部地検帳にも1588年の調査で「中ツヲノ村」に里田や屋敷があったとの記述がみられる。

宇高舞林道



中津尾の歴史は古く、源平合戦のあと平重盛の次男、平資盛が平家一行は四回へ潜行する。祖谷から土阿国境の山々を越え、石立〜行者〜赤城尾から西へ向い、尾根伝いに五位ヶ森〜中津尾マユズイ山〜堂平へと落ちのびる。資盛については国の内の平家の岩屋に潜んだといわれるが、聖神社お堂の山中に資盛の墓があったといわれる。

板谷山の法堂平に長谷寺があった頃、僧侶が岩の上からおれを入れた鉢を法刀により各地へ飛ばしていた。その法刀と鉢の法といひ、おれを受け取った人はトキ(斎)(御布施)を入れて戻っていた。ある時、安芸方面へ飛ばしたら、その人が魚を食って、おれの中へ鉢が割れ、おれ以来、坊さんは魚が食えなくなり、鉢が割れた所を「うい谷」と呼ぶようになった。安芸市の民話より

檜谷山国有林は平成16年まで安芸管務署が管理していた。現在は高知中部森林管理署管轄。昭和33年、小川(おこう事業所は)宿舎が初転し翌年昭和34年に檜谷製品事業所が開設され、職員が移り住み学校も開校した。檜谷山はモミ、カ、ヤナヒなどが生い茂る着手の天然林で、中でも杉の大木が多くあり、生産された原木はトラックで安芸へと搬出された。

檜谷山には木地師が住んでおり、ロクロを回してワグで板や盆を作っていた。木地師の作った盆をもらったという人もいたという。



五位ヶ森
(1185m)

尾根から尾根へ人が歩くことで文化が伝わり広がっていた。

堂平のシキビ畑の上に神社の跡がある。小松さんによるともとは金山神社として五位ヶ森の上で祖山や中津尾の人たちが祀っていたが、母方の祖父の時代に堂平へ移して祀っていたが、いつか祭司も金絶えたため、ご神体は金山へお返し、建物だけが残っている。



ニホンジカの生息数が増えている

中津尾を流れる火田山川は堂平や檜谷の山に降った雨を集めてやがて安芸川と合流し太平洋へと流れていく。中津尾は香美市でありながら物部川流域には属する安芸流域となっている。

中津尾の戸の礎という所に山姥が住んでいた。親たちが仕事に行くと家に入ってきてその家の子にシキビを取らしては「親には言えよ。言わば下ら打出の小鉢をやるぞ」と来日も来る日も言っていた。子どもははたいては嫌になり、親に話して「お山姥は悪いね。その子をハッ裂ましてその家の門の杉の木の根を切らしてあげた。杉の木は根を切られれば切株が太正の頃まで残っていたという。これはおまじないだ。」

中津尾 堂平物語